

WAMモデル事業

(3年継続、年1,000万円×3年=3,000万円の予定)

1年目手探り実践

2年目方向性を決めてモデル実践

3年目全国へのアピール⇒制度化へ

小規模多機能の包括的支援機能の強化学業

【事業の問題意識】

現在小規模多機能は「地域を支えようとしている事業所」と「困り込んだ利用者しか支援しようとしないう事業所」に2分化している。また、平成18年に制度化されたときには担い手のスタッフも若い人たちが多かった(給与も低かった)こともあり、また各種の報酬アップにつながる提案を行ってきたこともあり、結果厳しいながらもどうにか運営できてきた。

しかし15年経過し人件費も高くなり、報酬もアップされない中で経営が困難になっている。このままでは小規模多機能は地盤沈下を起こし存在意義が問われるようになる。制度化されて15年目となる小規模多機能のこれからが今問われている。

一方で国では「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進」が検討され、「断らない支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」の3つの支援を一体的に行う新たな事業創設が提案されている。ここには老健局と社援局の温度差も感じる。この縦割りを超えていけるのは、介護保険事業所でありながら地域に根差している小規模多機能であると思う。

小規模多機能が更に「地域に支えられ地域をまるごと支える」ようになるために、**地域を包括的に支援するモデル**が必要になっている。決して小規模多機能の全部が転換すべきという訳ではない。真に地域の中で地域とともに歩む小規模多機能が、包括的支援に取り組みやすくすることが問われている。このことで小規模多機能のこれからの展開の道すじをつけたい。

3年後の(医療と介護の同時改定になる)介護保険改定に向けて、地域を支えようとしている小規模多機能の事業所が、連携協働して「**地域を支えることのできる**」付加価値付きの**小規模多機能を制度提案**できるようにモデル実践事業を行う。

付加価値付きの小規模多機能を生み出すことで、経営も安定・強化できる。

【事業目的】

小規模多機能が「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進」に寄与できるように、小規模多機能の包括的支援機能を強化することを目的に、全国の「地域とともに歩もうとしている事業所」が連携協働し、モデルとして包括的支援の取り組みを実践し、次期介護保険制度改定時に小規模多機能の支援機能について制度提案を行う事業。

【1年目の取り組み】

柱立て1、

この事業を連携協働して推進する委員会の開催

- ①目的 事業課題を実現できるように検討し、成果を取りまとめる
- ②内容 課題の整理、事業内容の詳細決定、取り組み状況の確認、報告会や研修会の計画および講師、情報発信、成果の取りまとめ、中間報告書の作成
- ③場所（地域） 熊本県山鹿市3回と東京都1回(年度末に報告会と同日開催)
- ④日時（時期） 4月末、8月、12月、3月
- ⑤予算（主な経費・概算の総額） 委員旅費、謝金(当法人関係は該当なし)
200万円程度

コロナ対策で
4月8月は3ヶ月
程度遅らせる

柱立て2、

当法人の小規模多機能事業所(熊本県山鹿市)での包括的支援のモデル実施

- ①目的 モデル事業の実施
- ②内容 事業所での相談および圏域を巡回し相談を受け、見守り、実際の支援を行い、必要に応じ各々の専門へつなぐ。また総合事業の通いの場の創出や生活支援の担い手の育成を行う。(現在の小規模多機能や包括支援センターでは困難な部分を行う。)また、多様な住民の参加を図る集いの開催、地域の課題に合わせた地域づくりを行う。
- ③場所 山鹿市の八幡・三玉圏域(当法人の小規模多機能事業所、本体とサテライトの2事業所の在る地域)
- ④日時 4月～3月
- ⑤予算 地域コーディネーター1名雇用(年間200日程度)人件費および活動費
350万円程度

事業の遅れを解消するため
に 9月10月は2名体制へ

柱立て3、

連携法人小規模多機能事業所での包括的支援の実施

- ① 目的 モデル事業の実施
- ② 内容 事業所での相談および圏域を巡回し相談を受け、見守り、実際の支援を行い、必要に応じ各々の専門へつなぐ。(現在の小規模多機能や包括支援センターでは困難な部分を行う。)また、多様な住民の参加を図る集いの開催、地域の課題に合わせた地域づくりを行う。また、その取り組みの要素を相互に確認する。
- ③場所 連携法人の小規模多機能事業所の在る5地域
- ④日時 5月～3月随時
- ⑤予算 アルバイト人件費(連携5団体で250万円程度)および活動費、要素確認のための旅費
各50万円～100円程度×5ヶ所 計350万円程度

柱立て 4、

報告会の実施および中間報告書の作成

- ①目的 取り組みを総括し報告会を開催し、その内容で報告書を作成する。
- ②内容 委員会のメンバーにプラスして、次年度の展開に関わってほしい団体や識者、行政に呼びかけ報告会を開催する。報告書は、当法人ホームページにアップする。
- ③場所 東京都周辺
- ④日時 3月末
- ⑤予算 案内チラシ、郵送費、会場費、資料代、報告会発表者旅費・謝金等
100万円程度

【2年目の予定】

柱立て 1、

この事業を連携協働して推進する委員会の開催

柱立て 2、

当法人及び連携小規模多機能事業所での包括的支援のモデル実施の継続

柱立て 3、

報告書の作成および報告会の実施

【3年目の予定】

柱立て 1、

この事業を連携協働して推進する委員会の開催

柱立て 2、

2年間のモデル事業の成果を全国に広めるための研修会・意見交換会の実施

柱立て 3、

3年間を総括した報告書の作成と報告会の実施

- ①目的 モデル事業の成果を総括するため
- ②内容 3年間の取り組みの成果を報告するための報告書の作成と報告会の実施